

令和4年 救助統計

とがち広域消防事務組合

凡 例

- 1 本書は、令和4年中に発生した救助事故全般について、救急事故等報告要領に基づいて算出したものを統計資料としてまとめたものです。
- 2 数字の単位未満は四捨五入しているため、総数と内訳が一致しない場合があります。
- 3 表中で使用した符号は下記のとおりです。
「-」・・・該当数字又は集計値のないもの
「※」・・・注釈
「▲」・・・マイナス表示

目 次

1 救助活動の範囲	1 ページ
2 救助活動状況の概要	1～2 ページ
3 事故種別ごとの救助出動状況等	2～5 ページ
4 救助出動人員及び救助活動人員	6 ページ
5 救助出動車両	7 ページ
別表 十勝管内消防署別救助出動件数と救助活動件数	8 ページ

1 救助活動の範囲

救助活動は、次のいずれにも該当する火災、災害又は事故により発生したものです。

- (1) 要救助者の存在が予想され、しかも、その生命又は身体に現実の危険が及んでいるものであること。
- (2) 緊急に被害者を人力、機械力、器具等を用いて安全な場所に救出する必要があるものであること。
- (3) 消防機関が行ったものであること。ただし、直接人命救助を伴わない警戒活動・危険物排除活動等及び死体捜索は対象から除外する。

※ 「火災」の場合における「救助出動件数」は、出動件数そのものではなく、出動して実際に救助活動を実施した場合のみ救助出動件数として計上しています。この場合、救助出動件数と救助活動件数は同数です。また、火災時に救助隊員の誘導に従って自力で脱出した者の数は「救助人員」には含まれていません。

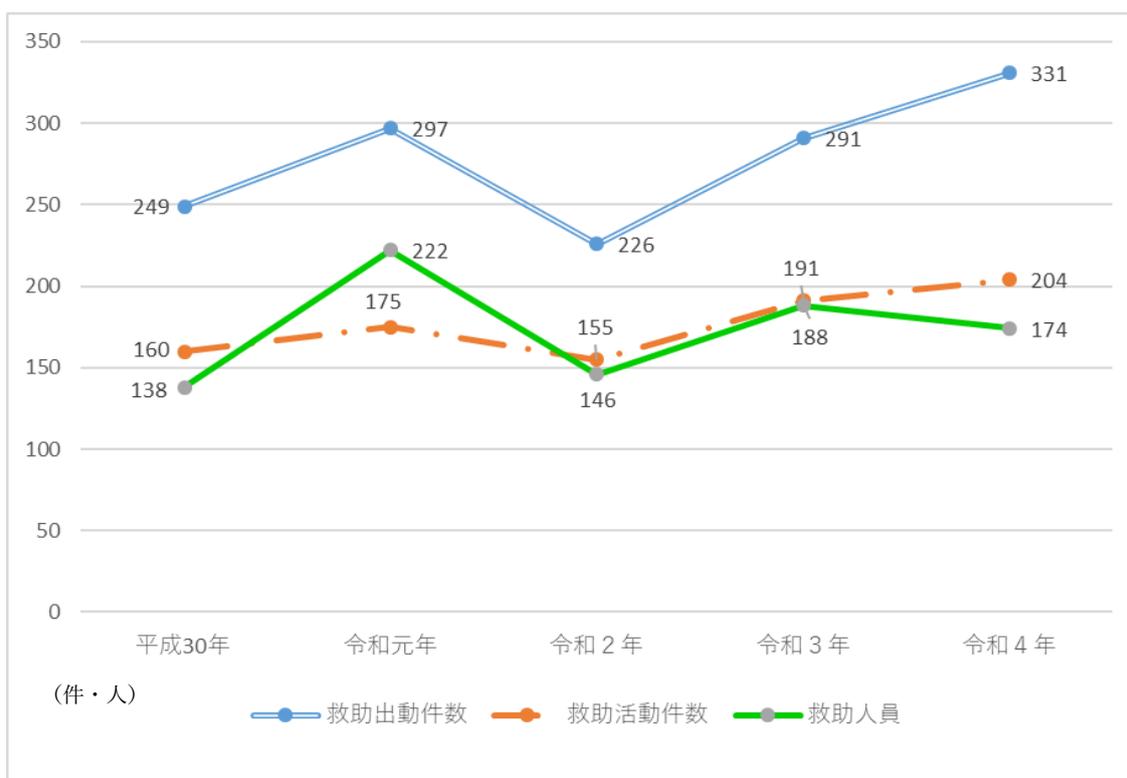
2 救助活動状況の概要

令和4年中における十勝の救助活動状況は、救助出動件数 331 件（対前年比 40 件増、13.7%増）、救助活動件数 204 件（対前年比 13 件増、6.8%増）、救助人員 174 人（対前年比 14 人減、7.4%減）であり、前年と比較して救助出動件数及び救助活動件数が増加している一方で、救助人員は減少しています。（表1、図1参照）

表1 救助出動・救助活動件数及び救助人員の推移

区分 年	救助出動件数			救助活動件数			救助人員		
	件数	対前年比		件数	対前年比		件数	対前年比	
		件数	増減率(%)		件数	増減率(%)		件数	増減率(%)
平成30年	249	249	12.2	160	160	23.1	138	138	9.5
令和元年	297	48	19.3	175	15	9.4	222	84	60.9
令和2年	226	▲71	▲23.9	155	▲20	▲11.4	146	▲76	▲34.2
令和3年	291	65	28.8	191	36	23.2	188	42	28.8
令和4年	331	40	13.7	204	13	6.8	174	▲14	▲7.4

図1 救助出動・救助活動件数及び救助人員の推移



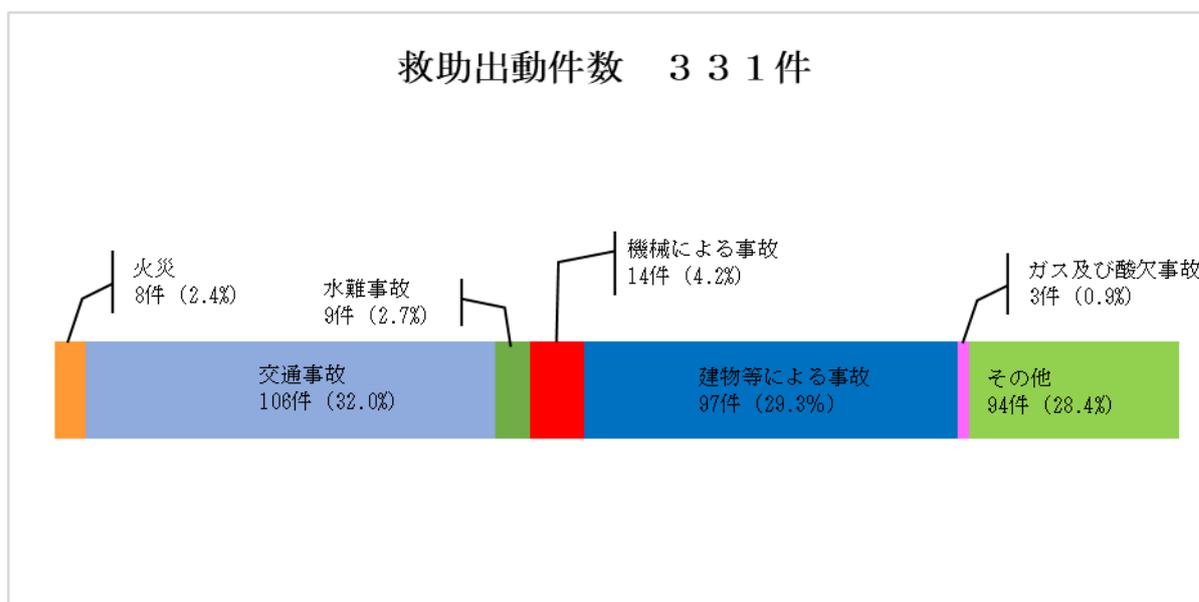
3 事故種別ごとの救助出動状況等

救助出動件数を事故種別ごとにみると、「水難事故」が9件（対前年比4件増、80.0%増）、「機械による事故」が14件（対前年比6件増、75.0%増）、「建物等による事故」が97件（対前年比22件増、29.3%増）、「ガス及び酸欠事故」が3件（対前年比2件増、200.0%増）、「その他」が94件（対前年比20件増、27.0%増）と前年から増加している一方で、「火災」が8件（対前年比4件減、33.3%減）、「交通事故」が106件（対前年比8件減、7.0%減）、「風水害等自然災害事故」が0件（対前年比2件減）と減少しています。（表2、図2参照）

表2 事故種別ごとの救助出動件数対前年比

事故種別	令和4年		令和3年		対前年比	
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	増減率 (%)
火災	8	2.4	12	4.1	▲4	▲33.3
交通事故	106	32.0	114	39.2	▲8	▲7.0
水難事故	9	2.7	5	1.7	▲4	80.0
風水害等自然災害事故	0	0.0	2	0.7	▲2	-
機械による事故	14	4.2	8	2.7	▲6	75.0
建物等による事故	97	29.3	75	25.8	▲22	29.3
ガス及び酸欠事故	3	0.9	1	0.3	▲2	200.0
破裂事故	0	0.0	0	0.0	0	-
その他	94	28.4	74	25.4	▲20	27.0
合計	331	100.0	291	100.0	▲40	13.7

図2 救助出動件数



- ※ 1 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計が100%にならない場合があります。
- 2 事故種別は、次により区分しています。
- (1) 「火災」とは、火災現場において、直接火災に起因して生じた事故。
 - (2) 「交通事故」とは、すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故。
 - (3) 「水難事故」とは、水泳中の溺者又は水中転落等による事故。
 - (4) 「風水害等自然災害事故」とは、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、雪崩、地すべりその他の異常な自然現象に起因する災害事故。
 - (5) 「機械による事故」とは、エレベーター、プレス機械、ベルトコンベアーその他の建設機械、工作機械等による事故。
 - (6) 「建物等による事故」とは、建物、門、柵、へい等の建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故等。
 - (7) 「ガス及び酸欠事故」とは、一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故、酸素欠乏による事故等。
 - (8) 「破裂事故」とは、直接火災に起因して生じた事故以外のボイラー、ボンベ等の物理的破裂による事故をいう。
 - (9) 「その他」とは、前記に掲げる事故等（(1)～(8)）以外の事故等で、消防機関による救助を必要とした事故。

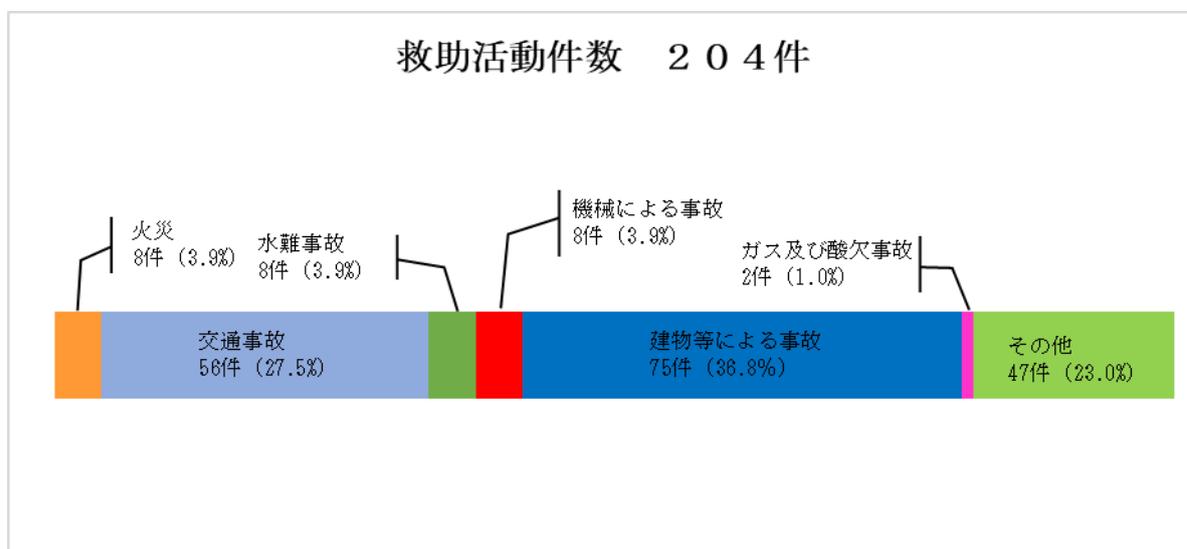
救助活動件数を事故種別ごとにみると、「建物等による事故」が75件と活動件数全体の36.8%を占め、最多の事故種別となっています。「火災」「交通事故」「風水害等自然災害事故」が減少する一方で、「水難事故」「機械による事故」「建物等による事故」「ガス及び酸欠事故」「その他」は増加しています。

(表3、図3参照)

表3 事故種別ごとの救助活動件数対前年比

事故種別	令和4年		令和3年		対前年比	
	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)	件数	増減率(%)
火災	8	3.9	12	6.3	▲4	▲33.3
交通事故	56	27.5	69	36.1	▲13	▲18.8
水難事故	8	3.9	3	1.6	5	166.7
風水害等自然災害事故	0	0.0	1	0.5	▲1	-
機械による事故	8	3.9	2	1.0	6	300.0
建物等による事故	75	36.8	57	29.8	18	31.6
ガス及び酸欠事故	2	1.0	1	0.5	1	100.0
破裂事故	0	0.0	0	0.0	0	-
その他	47	23.0	46	24.1	1	2.2
合計	204	100.0	191	100.0	13	6.8

図3 救助活動件数



※ 表2 注釈参照

救助人員を事故種別ごとにみると、「交通事故」が57人（対前年比41人減、41.8%減）、
「建物等による事故」が56人（対前年比10人増、21.7%増）となっています。

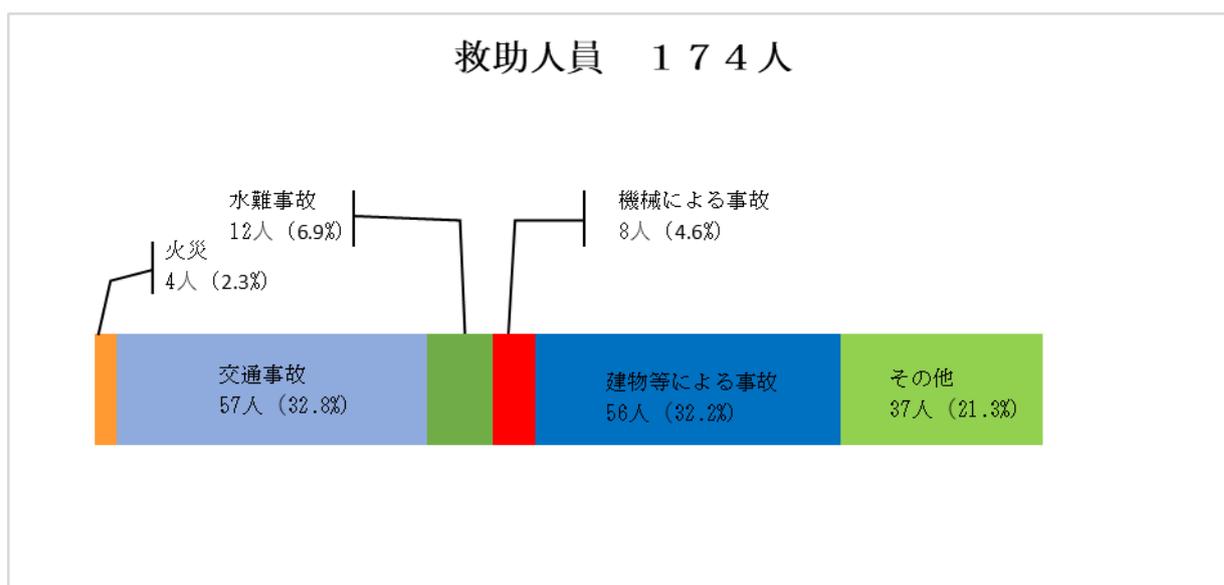
事故種別ごとの救助人員の構成比の推移をみると、「交通事故」「風水害等自然災害事故」
「ガス及び酸欠事故」が減少している一方で、「火災」「水難事故」「機械による事故」「建物
等による事故」「その他」が増加しています。

（表4、図4参照）

表4 事故種別ごとの救助人員対前年比

事故種別	令和4年		令和3年		対前年比	
	救助人員	構成比(%)	救助人員	構成比(%)	救助人員	増減率(%)
火災	4	2.3	2	1.1	2	100.0
交通事故	57	32.8	98	52.1	▲41	▲41.8
水難事故	12	6.9	3	1.6	9	300.0
風水害等自然災害事故	0	0.0	1	0.5	▲1	-
機械による事故	8	4.6	2	1.1	6	300.0
建物等による事故	56	32.2	46	24.5	10	21.7
ガス及び酸欠事故	0	0.0	1	0.5	▲1	-
破裂事故	0	0.0	0	0.0	0	-
その他	37	21.3	35	18.6	2	5.7
合計	174	100.0	188	100.0	▲14	▲7.4

図4 救助人員（救助活動により救助した人員）



※ 表2注釈参照

4 救助出動人員及び救助活動人員

救助出動人員の合計は 4,103 人であり、事故種別ごとの出動人員を多い順にみると「交通事故」が 1,217 人 (29.7%)、「建物等による事故」が 1,201 人 (29.3%) となっています。

救助活動人員の合計は 1,211 人であり、事故種別ごとの活動人員を多い順にみると「建物等による事故」が 408 人 (33.7%)、「交通事故」が 356 人 (29.4%) となっています。

(表 5 参照)

表 5 救助出動人員及び救助活動人員

事故種別 区分		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害 事故	機械によ る事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他	合計
救助 出動 人員	令和 4 年	288 7.0%	1,217 29.7%	171 4.2%	0 0.0%	137 3.3%	1,201 29.3%	76 1.9%	0 0.0%	1,013 24.7%	4,103 100.0%
	令和 3 年	527 13.8%	1,300 34.0%	121 3.2%	14 0.4%	74 1.9%	889 23.3%	38 1.0%	0 0.0%	859 22.5%	3,822 100.0%
	増減	▲ 239	▲ 83	50	▲ 14	63	312	38	0	154	281
救助 活動 人員	令和 4 年	53 4.4%	356 29.4%	93 7.7%	0 0.0%	60 5.0%	408 33.7%	10 0.8%	0 0.0%	231 19.1%	1,211 100.0%
	令和 3 年	103 8.2%	491 39.0%	47 3.7%	5 0.4%	11 0.9%	324 25.8%	3 0.2%	0 0.0%	274 21.8%	1,258 100.0%
	増減	▲ 50	▲ 135	46	▲ 5	49	84	7	0	▲ 43	▲ 47

※ 表 2 注釈参照

5 救助出動車両

救助出動した車両の延べ台数は 1,158 台であり、救急自動車 347 台、消防ポンプ自動車 258 台、救助工作車 216 台となっています。

また、事故種別ごとにみると「交通事故」が 358 台、「建物等による事故」が 320 台となっています。

(表 6 参照)

表 6 事故種別ごとの出動車両

(台)

事故種別 区分	火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害 事故	機械によ る事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他	合計
救助工作車	8	62	9	0	8	77	4	0	48	216
消防ポンプ自動車	43	71	13	0	7	55	6	0	63	258
はしご車	2	0	0	0	0	2	0	0	5	9
化学車	13	32	1	0	2	31	2	0	21	102
指揮車・指令車	8	51	7	0	5	57	3	0	49	180
救急自動車	10	133	11	0	16	97	5	0	75	347
その他	0	5	10	0	2	1	1	0	9	28
消防団車両	0	4	1	0	2	0	0	0	11	18
合計	84	358	52	0	42	320	21	0	281	1,158

別表 十勝管内消防署別救助出動件数と救助活動件数

	救助出動件数				救助活動件数			
	令和4年	令和3年	増減	増減率	令和4年	令和3年	増減	増減率
帯広消防署	163	129	34	26.4%	105	85	20	23.5%
音更消防署	33	28	5	17.9%	22	24	▲2	▲8.3%
士幌消防署	6	5	1	20.0%	4	5	▲1	▲20.0%
上士幌消防署	7	10	▲3	▲30.0%	4	4	0	0.0%
鹿追消防署	2	0	2	-	2	0	2	-
新得消防署	13	8	5	62.5%	11	6	5	83.3%
清水消防署	15	10	5	50.0%	9	7	2	28.6%
芽室消防署	11	15	▲4	▲26.7%	4	6	▲2	▲33.3%
中札内消防署	6	1	5	500.0%	2	1	1	100.0%
更別消防署	4	3	1	33.3%	3	2	1	50.0%
大樹消防署	12	8	4	50.0%	10	6	4	66.7%
広尾消防署	7	6	1	16.7%	3	2	1	50.0%
幕別消防署	22	27	▲5	▲18.5%	10	16	▲6	▲37.5%
池田消防署	8	13	▲5	▲38.5%	5	9	▲4	▲44.4%
豊頃消防署	1	4	▲3	▲75.0%	1	3	▲2	▲66.7%
本別消防署	7	5	2	40.0%	3	3	0	0.0%
足寄消防署	10	15	▲5	▲33.3%	4	9	▲5	▲55.6%
陸別消防署	2	2	0	0.0%	1	1	0	0.0%
浦幌消防署	2	2	0	0.0%	1	2	▲1	▲50.0%
十勝総数	331	291	40	13.7%	204	191	13	6.8%

作成担当

とちぎ広域消防局消防救助課

令和6年1月作成